検査情報月報

2013 6月

横浜市衛生研究所

平成25年6月号　目次

【トピックス】

横浜市区別標準化死亡比（SMR） …… 1

平成24年度 家庭用品検査結果 …… 3

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告　平成25年5月 …… 5

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（平成25年5月分） …… 9

横浜市区別標準化死亡比（SMR）

地域別に、死亡数を人口で除した通常の死亡率（粗死亡率）を比較すると、地域の年齢構成に差があるため、高齢者の多い地域では死亡率が高くなり、若年者の多い地域では低くなる傾向があります。このような年齢構成の異なる地域間で、死亡状況の比較ができるように考えられた指標として、標準化死亡比（Standardized mortality ratio ： SMR）があります。標準化死亡比は、基準集団の年齢階級別死亡率とその地域の人口から算出する期待死亡数と、その地域で実際に観察された死亡数の比を用いることで、その地域の死亡状況がどの程度かを推測する指標です。標準化死亡比を用いることで、年齢構成の異なる集団について、年齢構成の違いを気にすることなく、より正確に地域比較ができます。

衛生研究所では、代表的な疾患について全国と比較した区ごとの標準化死亡比を算出し、ホームページ（http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/katsuyo/data.html）に掲載しており、今回、昨年度公表された平成22年の人口動態から得られた数値を元にデータを更新しましたのでご紹介します。なお、表の中の数字は、それぞれの疾患における全国の死亡率を1.00としたときの比で、1.00よりも大きいときは全国よりも標準化された死亡率が高いことを意味します。

表1　横浜市区別標準化死亡比（男性・抜粋）

区名	全死因	結核	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肝疾患	自殺
横浜市	0.96	***1.29***	1.01	0.93	0.91	***1.41***	0.82
鶴見	***1.11***	1.28	***1.13***	1.05	***1.19***	***1.86***	0.80
神奈川	1.02	1.34	***1.07***	0.94	0.98	***1.63***	0.83
西	***1.09***	1.20	***1.10***	1.11	1.03	***1.99***	0.81
中	***1.34***	***3.50***	***1.17***	***1.27***	***1.44***	***5.13***	***1.49***
南	***1.15***	1.35	***1.18***	***1.11***	***1.14***	***2.18***	1.10
港南	0.89	1.24	0.95	0.91	0.79	1.05	0.76
保土ケ谷	0.95	***1.97***	1.03	0.89	0.89	1.05	0.78
旭	0.92	1.00	0.97	0.89	0.84	***1.35***	0.81
磯子	0.97	0.92	1.03	0.97	0.96	***1.50***	0.81
金沢	0.87	1.03	0.94	0.85	0.87	0.95	0.74
港北	0.91	1.16	1.00	0.85	0.81	1.04	0.84
緑	0.92	1.06	0.98	0.88	0.89	1.22	0.74
青葉	0.77	1.10	0.88	0.78	0.70	0.61	0.70
都筑	0.80	1.61	0.87	0.83	0.69	0.70	0.65
戸塚	0.89	0.98	0.96	0.87	0.82	1.00	0.74
栄	0.84	1.32	0.92	0.78	0.79	0.83	0.74
泉	0.90	0.79	0.93	0.88	0.82	1.01	0.74
瀬谷	0.99	0.83	1.01	0.96	0.86	1.21	0.81

SMR算出法 ： ベイズ推計法
観察期間 ： 平成18～22年
全国の性・年齢別・死因別の死亡数 ：18～22年の平均値を使用
横浜市および当該区の男女別・死因別死亡数 ：18～22年の平均値を使用
全国の性・年齢別人口 ：H22国勢調査人口、推計人口（各年10月1日現在）を使用
横浜市および当該区の性・年齢別人口 ：H22国勢調査人口、推計人口（各年1月1日現在）を使用
※全国と比べて、統計学的に有意（$p<0.05$）に標準化死亡比が高い値を***太字斜体下線引き***としました。

表2　横浜市区別標準化死亡比（女性・抜粋）

区名	全死因	結核	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肝疾患	自殺
横浜市	0.99	1.17	***1.04***	0.94	0.95	***1.12***	0.97
鶴見	***1.13***	1.14	***1.13***	1.05	***1.21***	***1.36***	0.99
神奈川	1.01	1.60	1.03	1.00	1.03	1.20	0.92
西	***1.07***	1.30	1.03	0.98	1.01	1.23	0.99
中	***1.10***	2.00	***1.20***	1.01	1.04	1.23	1.09
南	***1.14***	1.51	***1.17***	***1.11***	***1.13***	***1.51***	1.04
港南	0.97	0.51	1.01	0.91	0.90	1.28	0.93
保土ケ谷	1.02	0.77	***1.08***	0.95	0.94	1.17	0.99
旭	0.97	0.50	1.04	0.88	0.92	0.90	0.96
磯子	1.02	1.61	***1.09***	0.93	1.01	1.01	1.00
金沢	0.96	1.46	1.01	0.97	0.86	0.99	1.02
港北	0.97	1.30	***1.05***	0.89	0.91	1.02	0.97
緑	0.85	0.88	0.94	0.82	0.79	0.96	0.77
青葉	0.82	1.35	0.92	0.79	0.77	0.90	0.97
都筑	0.88	1.20	0.96	0.88	0.84	0.97	0.96
戸塚	0.96	1.03	1.00	0.97	0.91	1.15	0.84
栄	0.96	1.26	1.00	0.81	0.87	1.05	1.06
泉	0.96	1.03	1.00	0.92	0.96	1.10	0.92
瀬谷	***1.05***	0.95	1.07	1.03	0.90	1.07	1.10

SMR算出法 ： ベイズ推計法
観察期間 ： 平成18～22年
全国の性・年齢別・死因別の死亡数 ：18～22年の平均値を使用
横浜市および当該区の男女別・死因別死亡数 ：18～22年の平均値を使用
全国の性・年齢別人口 ：H22国勢調査人口、推計人口（各年10月1日現在）を使用
横浜市および当該区の性・年齢別人口 ：H22国勢調査人口、推計人口（各年1月1日現在）を使用
※全国と比べて、統計学的に有意（$p<0.05$）に標準化死亡比が高い値を***太字斜体下線引き***としました。

横浜市全体では、男性では結核、肝疾患、女性では悪性新生物、肝疾患の死亡比が全国より有意に高くなっていました。区別でみると、特に中区の男性では多くの疾患で全国よりも高い死亡比を示しており、中でも肝疾患は全国の5倍以上、結核も全国の約3.5倍高くなっていました。

各区における健康施策立案にはこれらのデータが非常に参考になると考えられますが、さらにより具体的な施策立案に際しては、各疾患の要因や発生地域、区民の生活習慣などの詳細な分析が必要です。

なお、下記ホームページ「保健統計データ集」の「標準化死亡比」のページには、今回掲載できなかった他の疾患や、年ごとの標準化死亡比も掲載していますのでご参照ください。

◆衛生研究所保健統計データ集：
http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/katsuyo/data.html

【　感染症・疫学情報課　】

平成24年度 家庭用品検査結果

家庭用品担当では日常の生活用品である下着、靴下、帽子、床敷物、カーテンなどの繊維製品および家庭用の接着剤、塗料、エアゾル製品、洗浄剤などの家庭用化学製品について、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき検査を行っています。

平成24年度に規格基準に関する検査で取り扱った検体数は87件、延検査項目数は323件でした。このうち規格基準を超えた検体は8検体であり、違反内容はすべて乳幼児用繊維製品（よだれ掛け）のホルムアルデヒドでした（表1、表2参照）。この結果について、健康福祉局生活衛生課に報告しました。

表1 平成24年度 家庭用品検査検体内訳および検査結果

		検体数	違反検体数	検査項目数	ホルムアルデヒド 2歳以内	ホルムアルデヒド 2歳以内を除く	塩化水素・硫酸	有機水銀化合物	ディルドリン	TDBPP*1	トリフェニル錫化合物	水酸化ナトリウム・水酸化カリウム	トリブチル錫化合物	BDBPP*2	DTTB*3	メタノール	テトラクロロエチレン	トリクロロエチレン	容器試験 漏水試験	容器試験 落下試験	容器試験 耐酸性・アルカリ性試験	容器試験 圧縮変形試験
繊維製品	よだれ掛け	21	8	72	27			15			15		15									
	おしめカバー	1	0	6	1			1	1		1		1		1							
	下着	5	0	30	4	1		5	5		5		5		5							
	中衣	7	0	21	7				7						7							
	外衣	14	0	42	14				14						14							
	手袋	4	0	24	3	1		4	4		4		4		4							
	くつ下	8	0	48	7	1		8	8		8		8		8							
	帽子	5	0	13	3				5						5							
	寝衣	1	0	5	1				1	1				1	1							
	寝具	3	0	12					3	3				3	3							
	カーテン	1	0	2						1				1								
家庭用化学製品	家庭用接着剤	2	0	6				2			2		2									
	かつら等接着剤	3	0	3		3																
	家庭用ワックス	1	0	3				1			1		1									
	家庭用エアゾル製品	8	0	24												8	8	8				
	住宅用洗浄剤	2	0	5			1												1	1	1	1
	家庭用洗浄剤	1	0	7								1					1	1	1	1	1	1
合計		87	8	323	67	6	1	36	48	5	36	1	36	5	48	8	9	9	2	2	2	2

表2　家庭用品検査項目および規格基準

検査項目	用途	検査対象	規格基準
ホルムアルデヒド	樹脂加工剤、防菌防カビ剤	2歳以下の乳幼児用繊維製品	吸光度差が0.05以下または16μg/g以下
		乳幼児用以外の繊維製品、かつら等接着剤	75μg/g以下
有機水銀化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、靴墨、靴クリーム、ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	検出しないこと
トリフェニル錫化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、靴墨、靴クリーム、ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	検出しないこと
トリブチル錫化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、靴墨、靴クリーム、ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	検出しないこと
ディルドリン	防虫加工剤	繊維製品	30μg/g以下
TDBPP*1	防炎加工剤	繊維製品	検出しないこと
BDBPP*2	防炎加工剤	繊維製品	検出しないこと
DTTB*3	防虫加工剤	繊維製品	30μg/g以下
メタノール	溶剤	家庭用エアゾル製品	5%以下
テトラクロロエチレン	溶剤、汚れ落とし、シミ取り	家庭用エアゾル製品 家庭用洗浄剤	0.1%以下
トリクロロエチレン	溶剤、汚れ落とし、シミ取り	家庭用エアゾル製品 家庭用洗浄剤	0.1%以下
塩化水素 硫酸	洗浄剤	住宅用洗剤	10%以下
水酸化ナトリウム 水酸化カリウム	洗浄剤	家庭用洗浄剤	5%以下
容器試験	洗浄剤	住宅用・家庭用洗浄剤	各試験（漏水、落下、耐酸性・耐アルカリ性、圧縮変形）による容器強度を有すること
ジベンゾ[a,h]アントラセン	木材防腐・防虫剤	クレオソート油	10μg/g以下
		防腐・防虫木材	3 μg/g以下
ベンゾ[a]アントラセン	木材防腐・防虫剤	クレオソート油	10μg/g以下
		防腐・防虫木材	3 μg/g以下
ベンゾ[a]ピレン	木材防腐・防虫剤	クレオソート油	10μg/g以下
		防腐・防虫木材	3 μg/g以下

*1 TDBPP：トリス(2,3-ジブロムプロピル)ホスフェイト

*2 BDBPP：ビス(2,3-ジブロムプロピル）ホスフェイト

*3 DTTB：4,6-ジクロル-7-(2,4,5-トリクロロフェノキシ)-2-トリフルオルメチルベンズイミダゾール

【　検査研究課　家庭用品担当　】

感染症発生動向調査委員会報告　5月

≪今月のトピックス≫

- 風しんの流行が続いています。

全数把握疾患

5月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
デング熱	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
レジオネラ症	2件	破傷風	1件
アメーバ赤痢	3件	風しん	88件

＜腸管出血性大腸菌感染症＞

1件(O157 VT2)の報告がありました。感染経路等調査中です。

＜デング熱＞

2 件の報告がありました。どちらも渡航先(インドネシアバリ島)での感染が推定されています。

＜レジオネラ症＞

肺炎型 1 件、ポンティアック熱型 1 件の報告がありました。肺炎型は国内での水系感染が推定されており、ポンティアック熱型は感染経路等不明です。

＜アメーバ赤痢＞

腸管アメーバ症3件の報告がありました。1件は国内での異性間性的接触、もう1件は中国、マレーシアでの感染が推定されています。残るもう1件は感染経路感染地域等不明です。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞

1件の報告がありました。全身のリンパ節腫脹を認め、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞

6件の報告があり、それぞれの症例は、①60歳代女性、ワクチン接種歴無し。症状は発熱、意識障害、項部硬直で髄膜炎と診断されています。血清型11型(血液より)。娘、孫に感冒様症状あり。②70歳代男性。ワクチン接種歴不明。症状は発熱と意識障害で、髄膜炎と診断されています。血清型22型(血液、髄液より)。③80歳代男性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱、咳、全身倦怠感で肺炎と診断されています。血清型19型(血液より)。④80歳代女性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱、咳で、肺炎と診断され、口腔内分泌物の誤嚥が原因と推定されています。血清型15型(血液より)。⑤70歳代女性。ワクチン接種歴不明。症状は頭痛、発熱と倦怠感で、血液から肺炎球菌が検出されています。血清型14型(血液より)。⑥1歳男児。ワクチン接種歴3回(7価結合型)有り。症状は発熱、咳、痙攣と項部硬直。血液、髄液より肺炎球菌が検出されています。血清型は現在検査中です。今回、60歳以上の症例のすべてで予防接種歴が確認できませんでした。予防にはワクチン接種が重要です。

＜破傷風＞

1件の60歳代男性の報告がありました。国内での労働環境からの感染が推定されています。

＜風しん＞

88件(男性66件、女性22件)の報告がありました。10件を除いて予防接種歴が無いか確認できませんでした。風しんは現在流行が続いています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しんHI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています※。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の20～40歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。4月22日から予防接種の助成が始まっています。

※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf

◆横浜市感染症臨時情報:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(横浜市保健所:緊急風しん対策について)

http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html

平成25年　週－月日対照表	
第17週	4月22日～ 4月28日
第18週	4月29日～ 5月 5日
第19週	5月 6日～ 5月12日
第20週	5月13日～ 5月19日
第21週	5月20日～ 5月26日

定点把握疾患

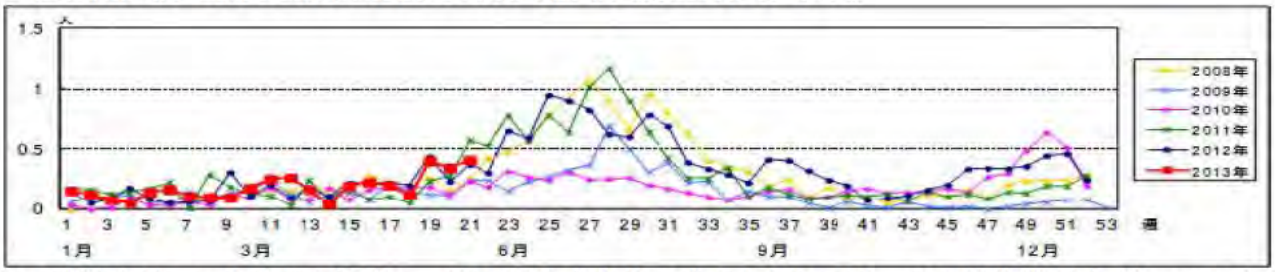
平成25年4月22日から平成25年5月26日まで（平成25年第17週から平成25年第21週まで。ただし、性感染症については平成25年4月分）の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

1　患者定点からの情報

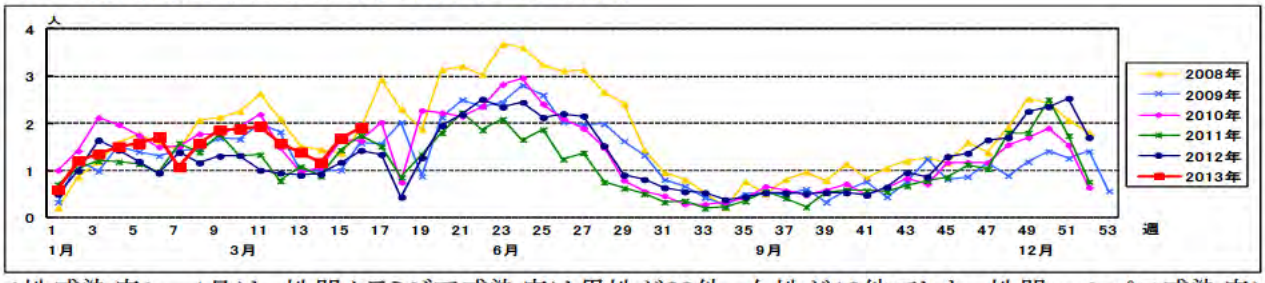
市内の患者定点は、小児科定点：92か所、内科定点：60か所、眼科定点：19か所、性感染症定点：27か所、基幹（病院）定点：4か所の計202か所です。

なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

＜咽頭結膜熱＞　市全体で第21週0.41とやや増加しています。例年夏季に流行する疾患なので、今後の注意が必要です。予防対策は、うがいや手洗いが重要です。また、プールの前後はシャワーをよく浴びるようにしましょう。学校保健安全法上は、第二種の学校感染症に分類され、出席停止の対象となっており、登校基準は「主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止とする。ただし、病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。」とされています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞　第21週は市全体で定点あたり2.19と、やや報告数が多くなっていますが、警報発令基準値8.00を大きく下回っています。



＜性感染症＞　4月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が12件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が3件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が1件でした。

＜基幹定点週報＞　全国ではマイコプラズマ肺炎が定点あたり1.00を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に1.00を下回り、第20週0.49、第21週0.51と落ち着いてきています。横浜市でも第17週0.75、第18週2.00、第19週0.50、第20週0.50、第21週0.00と、以前に比べて報告数はやや落ち着いてきました。第17週に無菌性髄膜炎の報告が1件（7歳女児。髄液よりウイルス検索中）ありました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

＜基幹定点月報＞　4月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症12件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【　感染症・疫学情報課　】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

＜ウイルス検査＞

5月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点41件(鼻咽頭ぬぐい液32件、ふん便5件、うがい液1件、不明3件)、内科定点1件(鼻咽頭ぬぐい液)、基幹定点5件(鼻咽頭ぬぐい液3件、ふん便2件、喀痰1件、髄液1件、血清1件)、眼科定点2件(眼脂)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎19人、下気道炎4人、胃腸炎6人、インフルエンザ5人、ヒューマンメタニューモウイルス感染症2人、口内炎2人、突発性発疹症疑い1人、りんご病1人、風疹疑い1人、内科定点はインフルエンザ1人、基幹定点は気道炎2人、肺炎1人、髄膜炎1人、胃腸炎1人、眼科定点は流行性角膜炎2人でした。

6月10日現在、小児科定点のインフルエンザ患者5人と内科定点のインフルエンザ患者1人からインフルエンザB型ウイルス、上気道炎患者2人からアデノウイルス1型と3型、胃腸炎患者1人からアデノウイルス(型未同定)が分離されています。これ以外に遺伝子検査では、小児科定点のヒューマンメタニューモウイルス感染症患者2人と上気道炎患者2人からヒューマンメタニューモウイルス(1人はライノウイルスと重複)、上・下気道炎患者各1人からパラインフルエンザウイルス、上気道炎患者1人からRSウイルスとライノウイルス、上気道炎患者1人からライノウイルとヒトボカウイル、胃腸炎患者1人からロタウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

＜細菌検査＞

5月の感染性胃腸炎関係の受付は、小児科定点から1件、基幹定点から7件、定点以外の医療機関等からは8件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT1&2、O157:H−,VT2、O26:H11,VT1)、腸管毒素原性大腸菌(O6:H16,ST+、O159:H+,ST+)、サルモネラ(*S.*Enteritidis)、パラチフスA菌(インドに渡航)が検出された。

その他の感染症は小児科から11件、その他が33件であった。バンコマイシン耐性腸球菌は19株すべて*van*B型の*Enterococcus feacium*であった。

(次ページに表)

表　感染症発生動向調査における病原体検査(5月)

感染性胃腸炎

検査年月	5月			2013年1月～5月		
定点の区別	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数	1	7	8	3	50	16
菌種名						
赤痢菌					1	
腸管病原性大腸菌					1	
腸管出血性大腸菌			3			7
腸管毒素原性大腸菌		2			2	
チフス菌					3	
パラチフスA菌			1			1
サルモネラ		1		1	17	
不検出	1	4	4	2	26	8

その他の感染症

検査年月		5月			2013年1月～5月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数		10	0	33	36	15	115
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌	T1				1	1	
	T2				3		
	T6	1			3		
	T4	2			8		
	T12	2			3		
	T25	1			2		
	T28	1			3		
	T B3264				2		
B群溶血性レンサ球菌					1		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						6	
バンコマイシン耐性腸球菌				19		1	19
インフルエンザ菌					1		1
肺炎球菌		1		11	2	3	11
Neisseria meningitidis							2
黄色ブドウ球菌					2	4	
結核菌							10
G群溶血性レンサ球菌				1			2
緑膿菌							63
不検出		2	0	2	5	0	7

＊:定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別):A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【　検査研究課　細菌担当　】

衛生研究所WEBページ情報

（アクセス件数・順位　平成25年4月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事　平成25年5月分）

横浜市衛生研究所ホームページ（衛生研究所WEBページ）は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成25年4月のアクセス件数、アクセス順位及び平成25年5月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1　利用状況

(1) アクセス件数 （平成25年4月）

平成25年4月の総アクセス数は、407,245件でした。主な内訳は、感染症情報センター85.2%、食品衛生5.2%、保健情報3.3%、検査情報月報2.1%、生活環境衛生0.8%、薬事0.5%でした。

(2) アクセス順位 （平成25年4月）

4月のアクセス順位（表1）は、第1位が「リシン毒素について」、第2位が「先天性風しん症候群について」、第3位が「風しんについて」でした。

表1　平成25年4月　アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	リシン毒素について	143,280
2	先天性風しん症候群について	76,834
3	風しんについて	9,531
4	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	4,901
5	衛生研究所トップページ	4,479
6	マイコプラズマ肺炎について	4,400
7	ぎょう虫(蟯虫)症について	4,322
8	ロタウイルスによる感染性胃腸炎について	3,426
9	臨時情報	3,153
10	横浜市感染症情報センター	2,701

データ提供:総務局IT活用推進課

4月の総アクセス数は、前月比で約2.3倍の増加となっています。今月は、1位と2位で、大幅なアクセス数の増加となりました。1位は「リシン毒素について」です。これは、米国において、大統領や上院議員にリシン毒素が郵送された事件の報道により、アクセス数が増加したと考えられます。2位の「先天性風しん症候群について」に関しては、最近の風しんの流行とともに、先天性風しん症候群においても報道等で取り上げられことによる増加と考えられます。まだ、風しんは高い水準で流行しており、手洗いやうがいによる予防対策が大切です。

また、マイコプラズマ肺炎のアクセス件数は、年間を通じて多くなっています。国立感染症情報センターの報告によると、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、平成25年第14週(4月1日～7日)0.42、第15週（4月8日～14日）0.46、第16週（4月15日～21日）0.52、第17週（4月22日～28日）0.53、第18週（4月29日～5月5日）0.47となって、推移しています。

厚生労働省のマイコプラズマ肺炎に関するQ＆A（一般の人向け）　平成24年10月改訂

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou30/index.html

「先天性風しん症候群について」に関連する情報

http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/crs1.html

「リシン毒素について」に関連する情報

http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/ricin1.html

(3) 電子メールによる問い合わせ （平成25年5月）

平成25年5月の問い合わせは、6件でした(表2)。

表2　平成25年5月　電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
「雑誌取材のお願い」について	1	検査研究課医動物担当
人工甘味料「アスパルテーム L-フェニルアラニン化合物」について	1	検査研究課食品添加物担当
当所WEBへのリンクについて(自殺対策について)	1	感染症・疫学情報課
EBウイルスについて	1	感染症・疫学情報課
感染症について	1	感染症・疫学情報課
甘味料スクラロースについて	1	検査研究課食品添加物担当

2 追加・更新記事 （平成25年5月）

平成25年5月に追加・更新した主な記事は、8件でした(表3)。

表3　平成25年5月　追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
5月 1日	◆お知らせ◆　感染症法が一部改正され【　届出基準・届出様式　】が変更になります。	変更
5月 1日	感染症に気をつけよう(5月号)	掲載
5月 2日	鳥インフルエンザA(H7N9)について	掲載
5月16日	風しんの発生状況	掲載
5月24日	苦情事例集(酵母が生えたさばみりん干し)	更新
5月24日	◆パンフレット◆　熱中症に注意しましょう！	更新
5月29日	風しん発生調査票	掲載
5月30日	風しんの発生状況	掲載

【　感染症・疫学情報課　】